

ジャンプアップキャンプ

令和4年3月12日(土)、13日(日)

【対象】小学校3、4年生

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

自然の中でグループ活動を通して、主体性・協調性・コミュニケーション能力を育む機会とする。また、法人ボランティアが事業の企画運営をすることで、資質・技能を高める。

2. 事業の概要

(1)期 日 令和4年3月12日(土)、3月13日(日)

(2)参加者 27名

(3)日 程

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
日程		受付 9:15~9:30	受付 開 会 式	自然の中にとびこもう！ (課題解決プログラム) 昼食			火のつどい (キャンドル ファイヤー)	閉 会 式	解散 15:30	

3. 企画運営のポイント

- ・ボランティアが自主企画することで、ボランティアの資質・技能を高める。
- ・ZOOM等オンライン会議アプリを活用し、ボランティアの企画会議をサポートする。
- ・参加した子供達に、冬の高遠の自然を感じてもらえるプログラムを実施する。

4. 参加者アンケート、保護者アンケートより（一部抜粋）

- ・いろいろなミッションがあって、工夫してやった。楽しかった。(3年・課題解決プロ)
- ・火に対して今まで怖がるが多かったですが、楽しくできたようです。(4年・キャンドルファイヤー)
- ・一人で参加することで、自分からすすんで取り組むことを考えるきっかけになりました。(3年・キャンプ全体)
- ・いつもは 学校であったことを聞いても「わからない」「忘れた」という反応ですが、今日は、オリエンテーリングやキャンドルのことを自分から話してくれました。お友達とも話ができて良かったようです。自分からお友達と話すのが苦手なので、職員やボランティアの皆さんの助けがあったことと思います。(4年・保護者)
- ・別れ際、スタッフの方々と離れるのがとても寂しくなり、帰りの車の中でずっと泣いていました。継続したイベントへの参加を通して愛着や信頼感が育まれるのだと思います。またぜひ参加したいと話していました。(3年・保護者)

5. 企画委員アンケートより（一部抜粋）

- ・今回の企画委員を通して得たものはたくさんあります。その中でも1番自分の中で大きく、成長できたと感じる点は見えないゴールに向かって走る大切さを感じることができたことです。わからなくても、わからないなりに周りの人を頼りながら考え続けることで、必ずしもそれが正解とは限らないけれど、確実な一歩を歩んでいけると感じられました。(法人ボランティア・大学2年)
- ・仲間と協力することの楽しさや子どもがどのようにすれば楽しむことができるのかといった視点を獲得することができた。今後は仲間と共に何かを作り上げるときに生かしていきたい。(法人ボランティア・大学1年)

6. 事業中の様子

【課題解決プロ 作戦会議】



【課題解決プロ 枝でダーツ】



【課題解決プロ ブラインドスクエア】



【課題解決プロ 自然物でお面づくり】



【課題解決プロ モザイクアート】



【キャンドルファイヤー】



【火を囲んで1日の振り返り】



【自由時間 雪遊び】



【モザイクアートの前で記念撮影】



7. 成果と課題

(1) アンケート結果 回収 25 名 (回収率 93%)

事業全体を通して	満足 : 21 名	84 %
	やや満足 : 3 名	12 %
	やや不満 : 1 名	4 %
	やや不満 : 0 名	0 %

(2) 成果と課題

○法人ボランティア企画委員が企画・準備・運営を通して、正解のない間に挑み続ける姿勢を育成することができた。また、企画と真剣に向き合うことで、自分たちの弱みや強みに気づき、今後のボランティアとしての活動の幅を広げることができた。

○活動プログラム全体を通して、初めて会った参加者同士が積極的にコミュニケーションを取る場面が見られた。また、初め輪に入れなかった参加者がみんなと一緒に踊っている姿が見られた。

- コロナウィルス感染症により宿泊から日帰りへと変更を余儀なくされ、企画した活動プログラムを 1 つ実施することができなかった。
- まん延防止等重点措置が発出されたことで、予定していた時期に施設でリハーサルが実施できず、直前リハーサルとなり直前での変更を余儀なくされた。